

科目分類	看護専門科目 領域別看護			開講時期	3年	前期
授業科目	母性看護学Ⅱ					
選択／必修	必修	単位数（時間数）	1単位	30時間	授業形態	演習
担当教員	木下 珠希・柳澤 奈美					
メールアドレス	n-yanagisawa@tsuruga-nu.ac.jp (柳澤)		オフィスアワー	事前連絡必要		

授業目的	周産期にある対象の身体的・心理社会的特徴をふまえ、母子とその家族のウェルネスに向けた支援を行うために必要な援助技術を習得する。
授業概要	母性看護概論および母性看護学Ⅰの学びを基に、周産期の母子への支援を行うために必要な看護技術を習得する。妊婦・産婦・褥婦・新生児の生理的変化への適応促進と健康上の問題解決のために必要な看護援助技術のエビデンスを理解し、演習を通して技術を習得する。
授業内容	<p>第1・2回 ガイダンス マタニティサイクルにある対象への看護 産褥期の看護過程・全体像の把握・対象の特徴とニード ＜退行性変化：妊娠分娩からの全身の回復をアセスメントと思考プロセス＞</p> <p>第3・4回 ＜新生児：胎内から胎外生活への適応と母親の育児技術獲得の思考プロセス＞</p> <p>第5・6回 ＜進行性変化と新生児の栄養の確立の思考プロセス＞</p> <p>第7・8回 ＜心理・家族の適応過程、生活と社会環境（母親側）を整える思考プロセス＞</p> <p>第9・10回 ＜親子・家族関係、生活環境（新生児側）を整える思考プロセス＞ ＜看護の必要性を導き看護目標を立案しケアプランを作成する＞</p> <p>第11・12回 ＜母性看護に必要な看護技術＞ 【演習】産褥及び新生児を観察するために必要な健康診査の方法</p> <p>第13・14回 褥婦の身体回復や子宮復古促進及び母乳分泌促進のための援助方 【演習】 子宮復古の観察、授乳（ラッチオン・ポジショニング） 新生児の日常生活援助の方法 早期新生児の観察（バイタルサインの測定・黄疸の観察） 新生児の清潔の援助（更衣・おむつ交換・沐浴）</p> <p>第15回 産褥期の母子への看護過程の展開とまとめ</p>
教科書 参考書等	<p>教科書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [ 2 ] 母性看護学各論 医学書院</li> <li>・根拠がわかる母性看護過程：事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画 中村 幸代 編集 南江堂</li> </ul>

	<p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北川真理子・内山和美編 根拠が分かる母性看護技術 メヂカルフレンド社</li> <li>・佐世正勝・石村由利子編 ウェルネスから見た母性看護過程＋病態関連図 医学書院</li> </ul>
成績評価 基準・方法	筆記試験（90点）・課題提出と演習の参加姿勢で評価（10点）
履修要件	母性看護学概論・母子保健学・母性看護学Ⅰを履修していること
留意事項 その他	<p>基礎領域で学習した解剖生理・病態・発達段階とホルモン変化の復習をしておくこと。また、各単元の予習・復習を行い、母性看護学の理解を深めること。</p> <p>この科目は母性看護学実習の修得要件である。</p>
実務経験のある 教員の教育方法	助産師としての臨床経験を活かして、妊娠・分娩・産褥期の女性と、新生児の健康や発達について講義を行う。